



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



● 今週の概要

■ 今週の感染症情報

■ 気になる話題 ～動物からうつる感染症について⑥～ **NEW**



（調査週） 平成 23 年 第 39 週 9 月 26 日（月）～ 10 月 2 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	手足口病	1.60	→	→～↓	→～↑	→
2	感染性胃腸炎	1.03	→～↓	→～↓	→～↓	→
3	RS ウイルス感染症	0.69	↑	↑↑	→～↑	↓
4	咽頭結膜熱	0.49	→	→	→	↓
5	水痘	0.37	→	→	→～↓	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

★奈良市保健所管内では手足口病の警報レベルが継続中です。定点当たり 2.43。

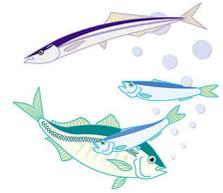
県北部地区概況 報告数は 80 例で、前週報告の 76 例からほぼ横ばい。上位 5 疾患は、①手足口病、②RS ウイルス感染症、③感染性胃腸炎、④水痘、⑤突発性発疹の順。RS ウイルス感染症の報告数（15 例）は、やや増加。水痘の報告数（9 例）も、やや増加。手足口病の報告数（23 例）は、横ばい。突発性発疹の報告数（6 例）は、ほぼ半減。感染性胃腸炎の報告数（13 例）も、やや減少。郡山 HC 管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が 2 例（共に 15～19 歳症例）報告された。奈良市 HC および郡山 HC 両管内眼科定点からの報告はなかった。（村井 記）

県中部地区概況 報告数は 38 週の 94 例から、39 週は 93 例と横ばいであった。上位の 5 疾患（38 週→39 週）は、①手足口病（26 例→26 例）、②感染性胃腸炎（31 例→20 例）、③咽頭結膜熱（5 例→15 例）、④RS ウイルス感染症（15 例→9 例）、⑤A 群溶連菌咽頭炎（2 例→6 例）の順であった。手足口病が 1 位、感染性胃腸炎が 2 位、RS ウイルス感染症は減少し 4 位となった。インフルエンザの報告はなかった。眼科定点からは葛城 HC より流行性角結膜炎 2 例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。（徳田 記）

県南部地区概況 報告数（第 38 週→第 39 週）は 13 例→14 例と推移。報告のあった疾患は①手足口病（4 例→7 例）、②感染性胃腸炎（3 例→3 例）、③ヘルパンギーナ（0 例→2 例）、④突発性発疹（2 例→1 例）、④流行性耳下腺炎（0 例→1 例）であった。（柳生 記）

【気になる話題 ～動物からうつる身近な感染症について⑥～】

わが国は、地理的に海、川、湖に恵まれ多くの水産物を食べています。今回は、魚などから感染する病気について述べます。



腸炎ビブリオは、主に海水中に生息する細菌です。1950年に大阪府で272名の患者と20名の死者を出した集団食中毒があり、原因食品とされたシラス干しから日本人によって新たに発見されました。この菌は、増殖に1～8%の塩分と20℃以上の温度が適しており、海水温が上がる夏季にしばしば食中毒の原因となります。2000年ごろから感染報告は減少傾向で、2011年の検出報告数は全国で4例に留まっています。この菌は加熱に弱いので、きちんと調理することで予防できます。

回虫の仲間である**アニサキス**は、サバ、アジ、イカ、イワシ、サケなど日常の食卓に上がる海産魚介類に寄生しており、ヒトの体内で胃や腸壁に侵入して強烈な腹痛を引き起こします。感染者数は年間2000例から3000例にも上がります。一週間程度で体外に排出されますが、まれに数ヶ月も留まることがあります。治療は、内視鏡での摘出しかありません。アニサキスは、加熱や冷凍により死滅します。

日本海裂頭条虫はいわゆる「サナダムシ」の一種で、幼虫が寄生したサケやマスを食べることでヒトに感染します。感染すると腸の中で成虫としてぐんぐん大きくなり、2ヶ月ほどで10メートル前後になります。これほど大きくても症状がない場合も多く、宿主であるヒトと共生する方向に進化したと考えられています。近年は衛生環境が整備され、ほとんど見られなくなりました。

一方、淡水魚などからうつる病気には、**顎口虫症**、**横川吸虫症**、**肝吸虫症**、**肺吸虫症**などの寄生虫症があります。それぞれの特徴を表にまとめました。

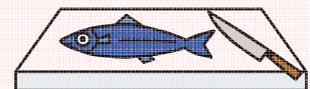
表. 淡水魚などからうつる病気

疾患名	主な感染経路（食材）	寄生部位、症状など
顎口虫症	ドジョウ、ナマズ、ライギョ	ヒトの皮下を移動。眼や脳に侵入し、重大な問題になることがある。
横川吸虫症	アユ、ウグイ、フナ、コイ	腸管に寄生。腹痛や血便。
肝吸虫症	モロコ、タナゴ、フナ、コイ	胆管・胆嚢に寄生。これらの臓器に異常。
肺吸虫症	サワガニ、モズクガニ、ザリガニ、およびこれらを食べたイノシシ	肺や胸に寄生。肺の炎症、血痰、喀血など。

以上のように、日本では海や河川・湖の生き物からうつる様々な病気があります。魚介類の生食という日本文化を守るためにも、魚介類を適切に取り扱い、感染のリスクを小さくする十分な知識をもつことが大切です。

魚などからうつる病気を防ぐ注意点

- ・ 冷凍または加熱して寄生虫や病原菌を死滅させる。
- ・ 淡水魚の生食は避ける。
- ・ 海水魚の生食では寄生虫が付着していないか注意する。



（感染症情報センター 記）